

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（7月4日-10日）の新規陽性者数は15,203人（先々週10,267人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は1.29[最小値0.40-最大値1.55]、このうち那覇市は那覇1.23[0.52-1.47]でした。また、宮古は1.39[0.46-2.03]、八重山は1.76[0.66-2.71]でした（図1）。全県的に急速に陽性者数が増加しています。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部857人（先々週668人）、中部5,364人（先々週3,498人）、那覇市2,752人（先々週2,121人）、南部4,207人（先々週3,015人）、宮古572人（先々週348人）、八重山1,368人（先々週570人）でした。とくに、八重山は過去最大を更新しながら、急速な感染拡大が収まりません。

県外からの渡航者は75人（先々週47人）とこちらも増加してきています。最多の渡航元は東京都の22人で、千葉県10人、埼玉県10人と続き、とくに首都圏に集中しながら19都道府県に渡ります。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10歳未満2,865人（19%）と最多であり、10代2,691人（18%）、30代2,278

人（15%）と続きます（図3）。高齢者を含め、すべての年代において急速に感染が広がっています（図4）。年代別にみて、前週比がもっとも高かったのは80代で1.72倍となっています。

入院患者数推移

先週の新規入院患者数は242人（先々週206人）でした。入院患者数は先週末時点で394人（7月3日時点329人）と急速に増加しており、このうち酸素投与など中等症患者は195人（7月3日時点140人）となっています。気管挿管など重症患者は5人（7月3日時点2人）でした（図5）。

なお、先週末（7月10日時点）における確保病床の病床占有率は、北部61.2%（41/67）、中部59.9%（100/167）、南部50.7%（104/205）、那覇71.3%（67/94）、宮古9.1%（6/66）、八重山59.1%（26/44）となっています。なお、重点医療機関の確保病床以外に入院されている46人については除いて計算しています（図6）。

一方、社会福祉施設で療養されている陽性者は、先週末時点で49施設355人（7月3日時点245人）とこちらも急速に増加しています（図7）。

死亡者の推定感染経路

沖縄県内において、2022年1月1日から7月7日までに死亡確認した感染者95人について、その推定感染経路を集計したところ、高齢者施設における施設内感染が45.3%、次いで医療機関における院内感染が22.1%であり、施設内または院内感染が全体の7割近くを占めていました（図8）。感染による死亡を減らしていくためには、高齢者施設や病院における集団感染の予防と発生時の支援

体制が重要だと考えられます。

社会福祉施設の発生動向

2022年4月から6月までの3か月間で、高齢者施設や障がい者施設など社会福祉施設において感染者を認め、県の施設支援班が介入した事例が690施設ありました。このうち、初発例と確認されたのは、職員500施設(72.5%)、入居者78施設(11.3%)、デイサービスやショートステイなど外からの利用者31施設(4.5%)を占めていま

た。施設内感染では、職員が端緒となることが大半となっています。

また、収束が確認された619施設において、最終的な感染者数を確認したところ、290施設(46.8%)が1人のみで封じ込められていますが、166施設(26.8%)が5人以上の集団感染に至っていました。9施設(1.5%)では、50人以上の感染を認めていますが、軽微ながらも症状を認めたまま複数の職員が働き続けてしまった事例を多く認めています(図9)。

【今後の見通しと対策】

全県的に感染が拡大しています。子どもを中心としていた流行から、徐々に壮年層へと移行しつつあることも特徴です。人々の交流や活動が活発になってきていることがありますが、従来のオミクロン株と比して感染力が増したとされるBA.5への置き換わりが進行していることも影響しています。

市中におけるBA.5への置き換わりが進んでおり、今週の新規陽性者数は20,000-30,000人と見込みます。ただし、検査・受診体制が限界となるため、報告数は2万人前後で頭打ちとなる可能性があります。また、今週末までに入院患者数は420-490人に至ると見込まれます(図10)。

沖縄本島では、コロナ病床占有率が医療ひっ迫の目安としている60%へと迫っています。今週中には超えてくる見込みであり、このままでは昨年8月のように入院できない患者が多発し、死亡者が増加する可能性が高まっています。これは医療崩壊を意味しています。現在の医療提供体制では、これ以上の感染拡大は許容できず、何らかの社会的制限が求められる状況となっています。

県内では、急速に救急搬送件数が増加しており、パンデミック発生前を上回る搬送数となっています(図11)。このため、救急医療機関の病床は満床状態となっており、コロナ以外の患者の医療も滞りはじめています。軽症者も救急外来に集まっていることから、とくに夜間は4時間以上の待ち時間が常態化しています。

重症化リスクの低い若年の軽症者については、できるだけ救急受診を避け、日中に近隣の診療所を受診するようにしてください。検査のみを希望される場合には、市販の抗原定性検査(医療用)を活用してください。とくに、抗原定性検査が陽性だったことを理由にして、PCRによる再検査を求めて救急外来を受診することのないようにしてください。

市販の抗原定性検査が陽性だった場合には、抗原定性検査・陽性者登録センターにおいて陽性者の登録ができます。詳細は以下のポスターをご覧ください。できるだけ救急受診を減らしていただくことで、救急外来が重症者の診療に集中することができます。ご協力をよろしくお願いいたします。

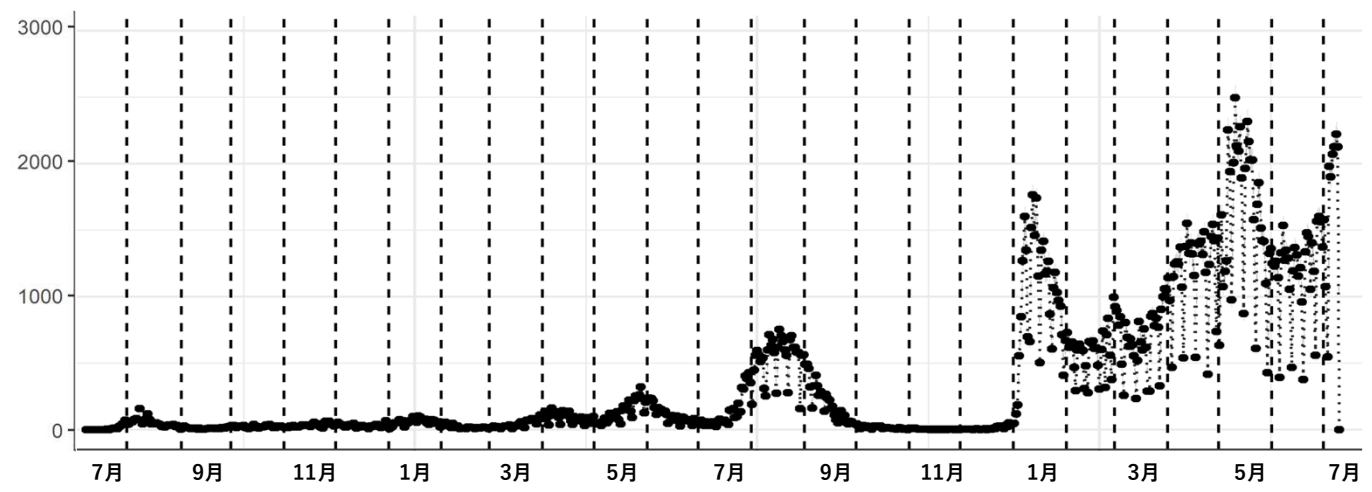
医療用抗原検査キットを使用し陽性となった方へ(沖縄県)

https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/vaccine/kensa/kougenn_touroku.html

図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

陽性者数 (確定日)
日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数
直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

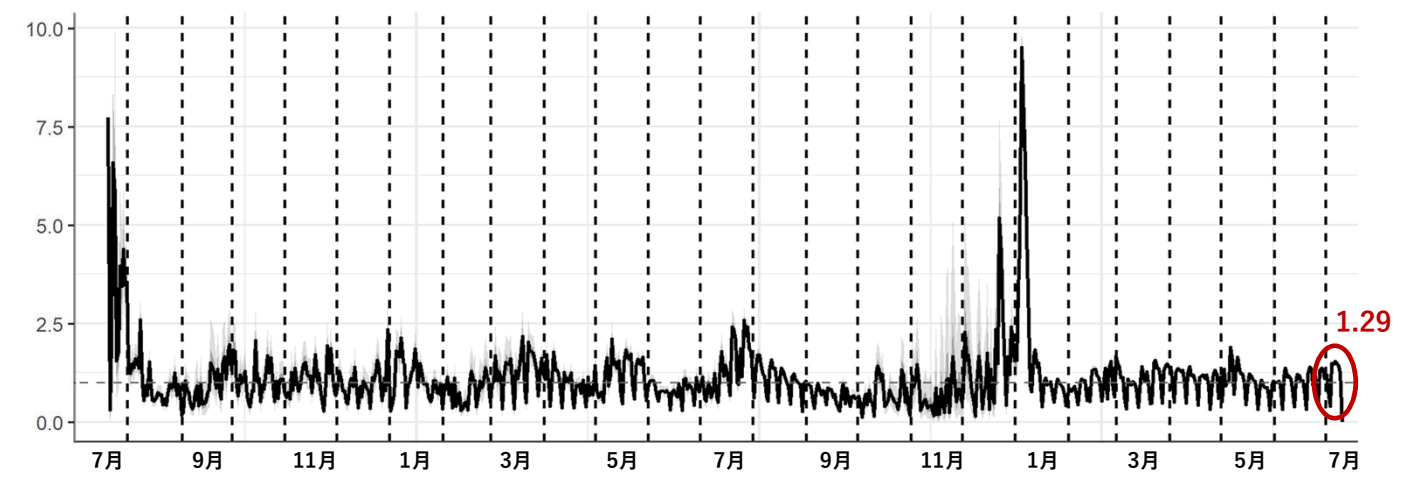


図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

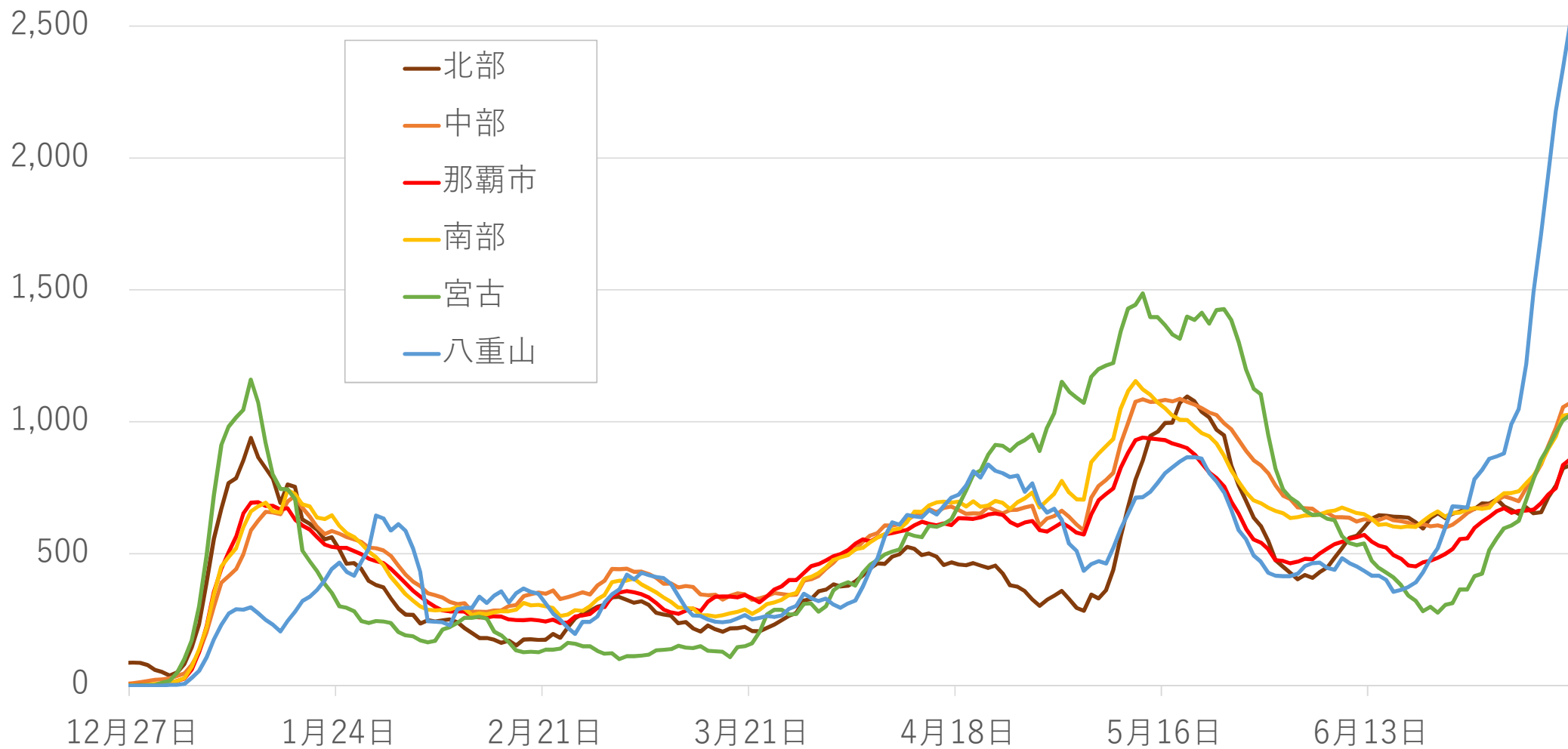


図3 性年齢階級別に見る陽性者数 (7月4日~10日)

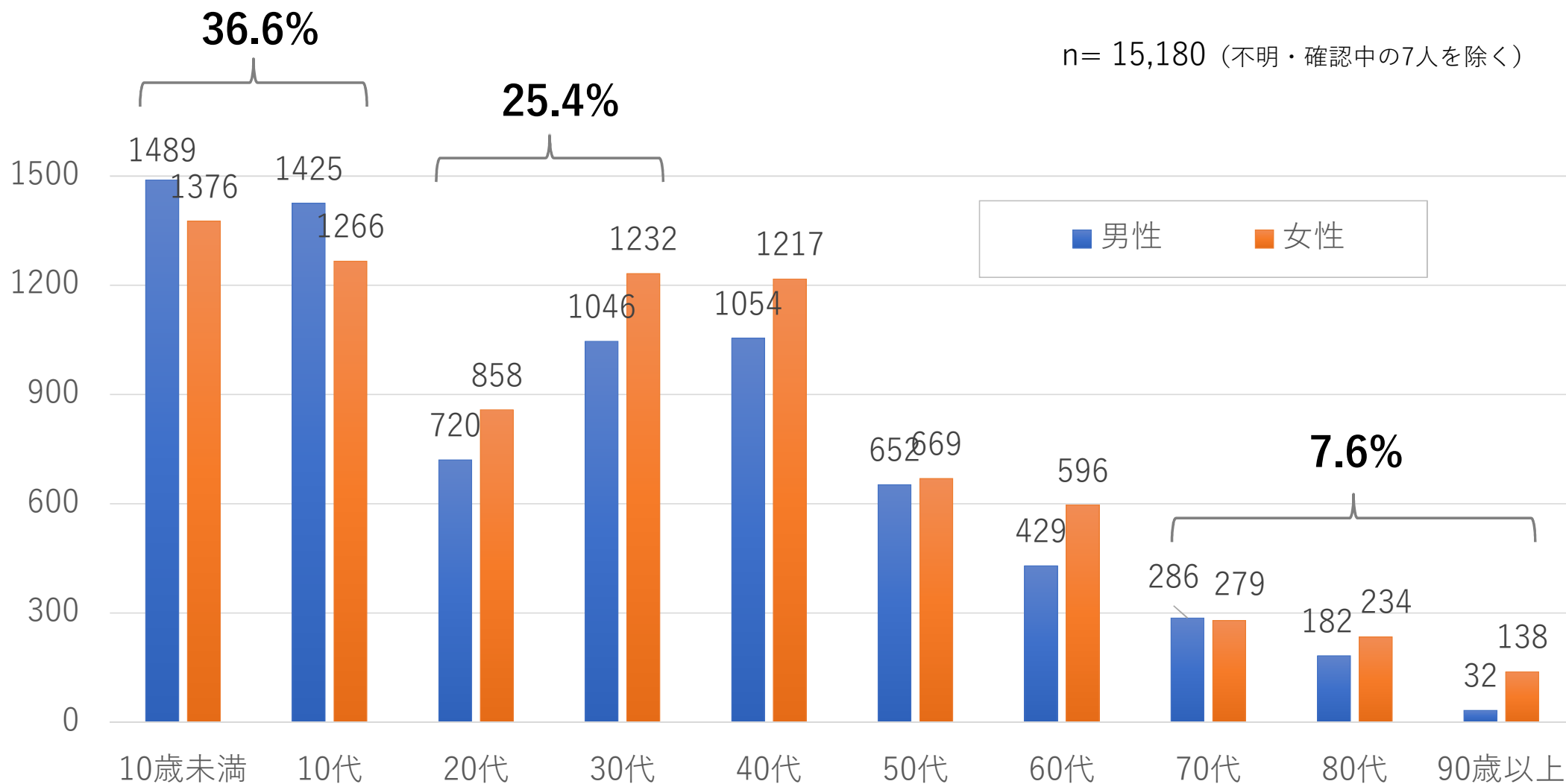


図4 年齢階級別に見る新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

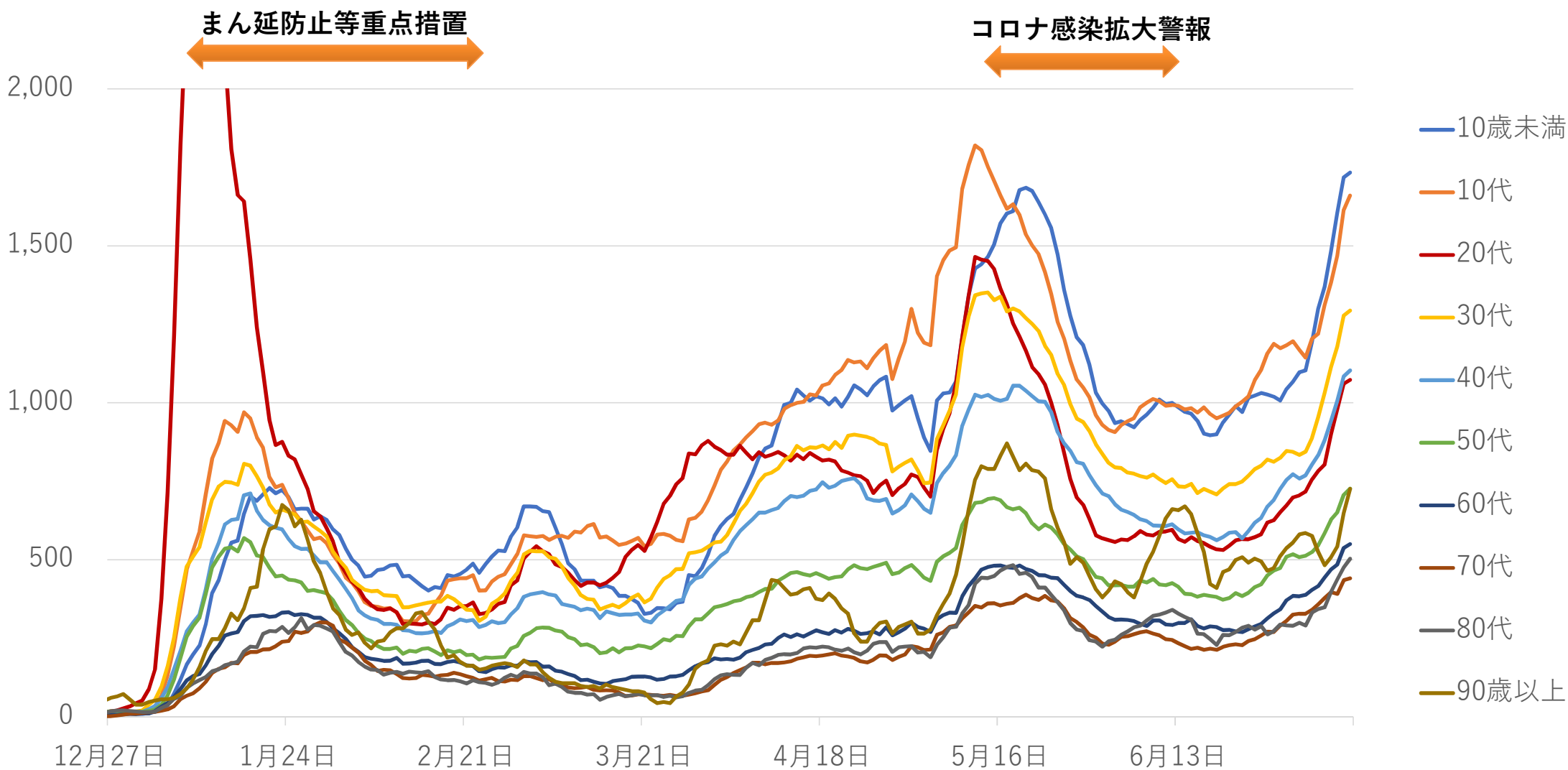


図5 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

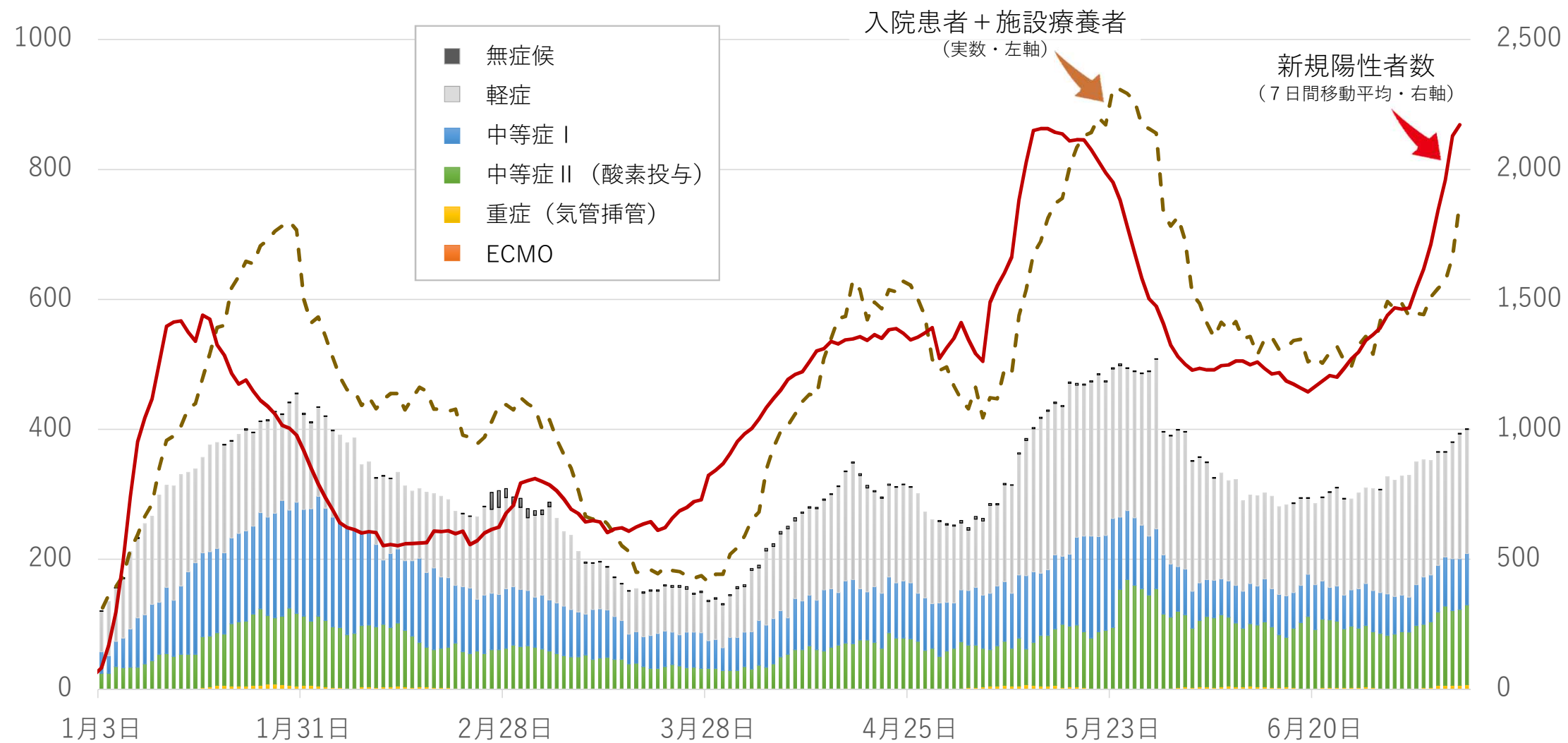
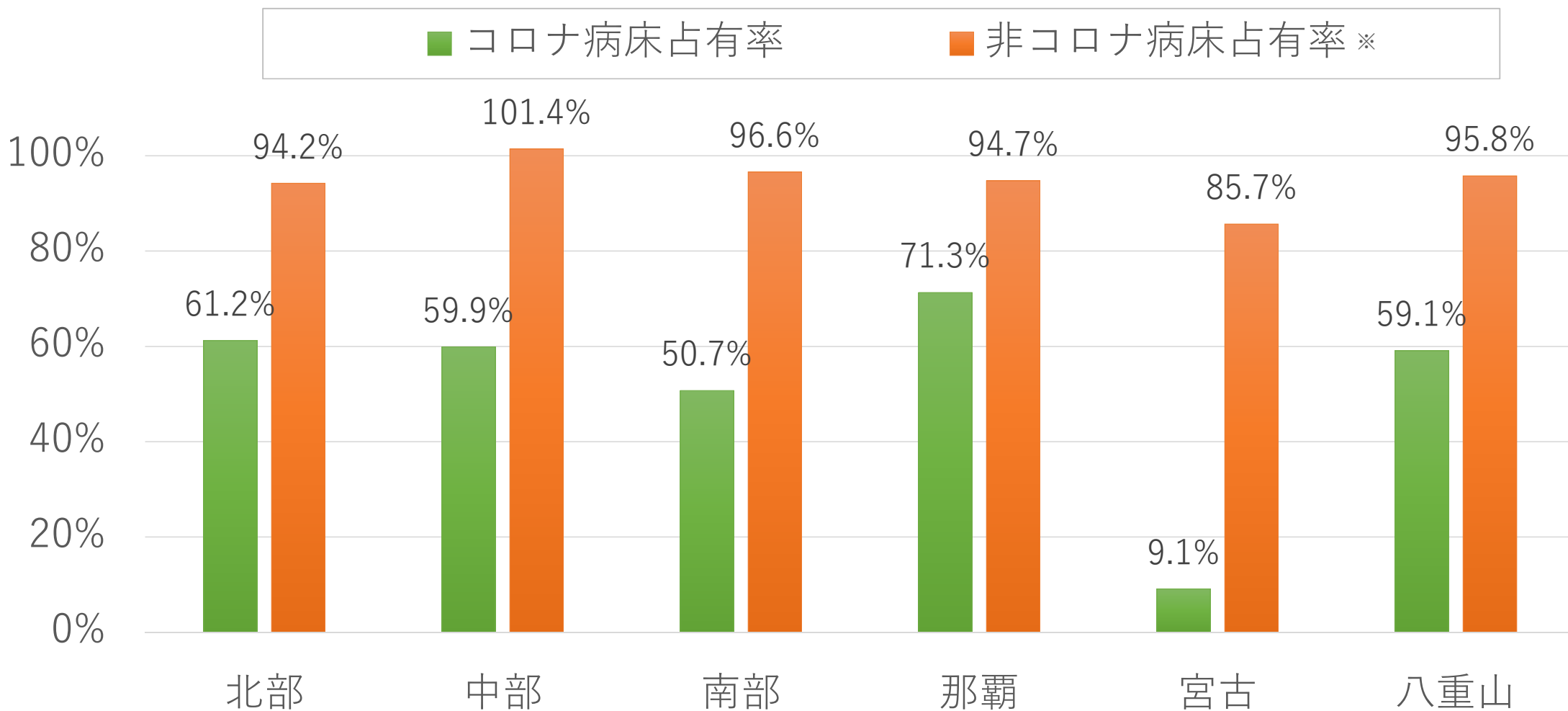


図6 重点医療機関における病床占有率（7月10日現在）



※ 救急受け入れをしている県内重点医療機関 16病院について集計

図7 社会福祉施設における施設内療養者数

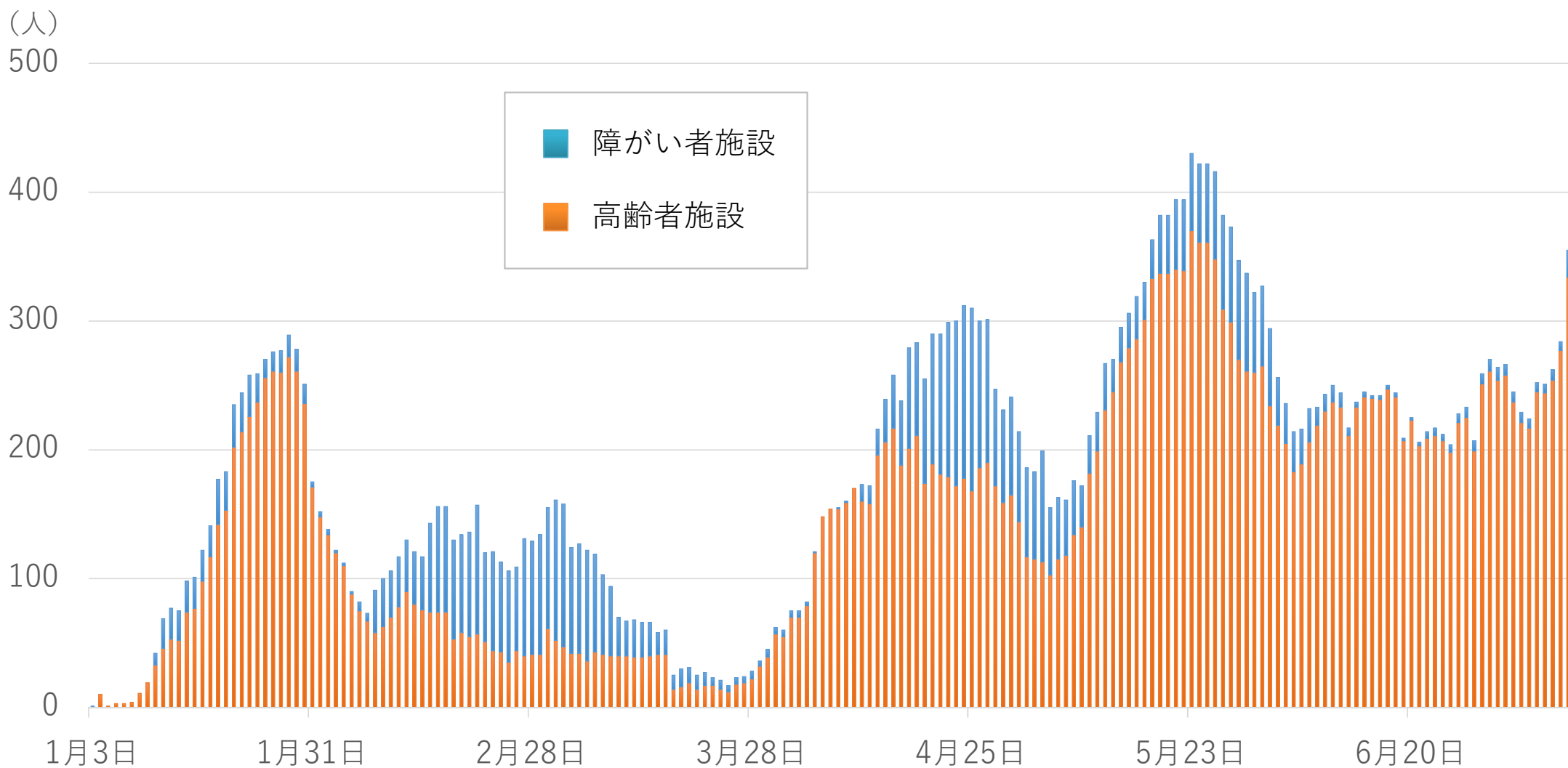


図8 死亡者における推定感染経路（沖縄県）

沖縄県内において、2022年1月1日から7月7日までに死亡確認した感染者95人について集計

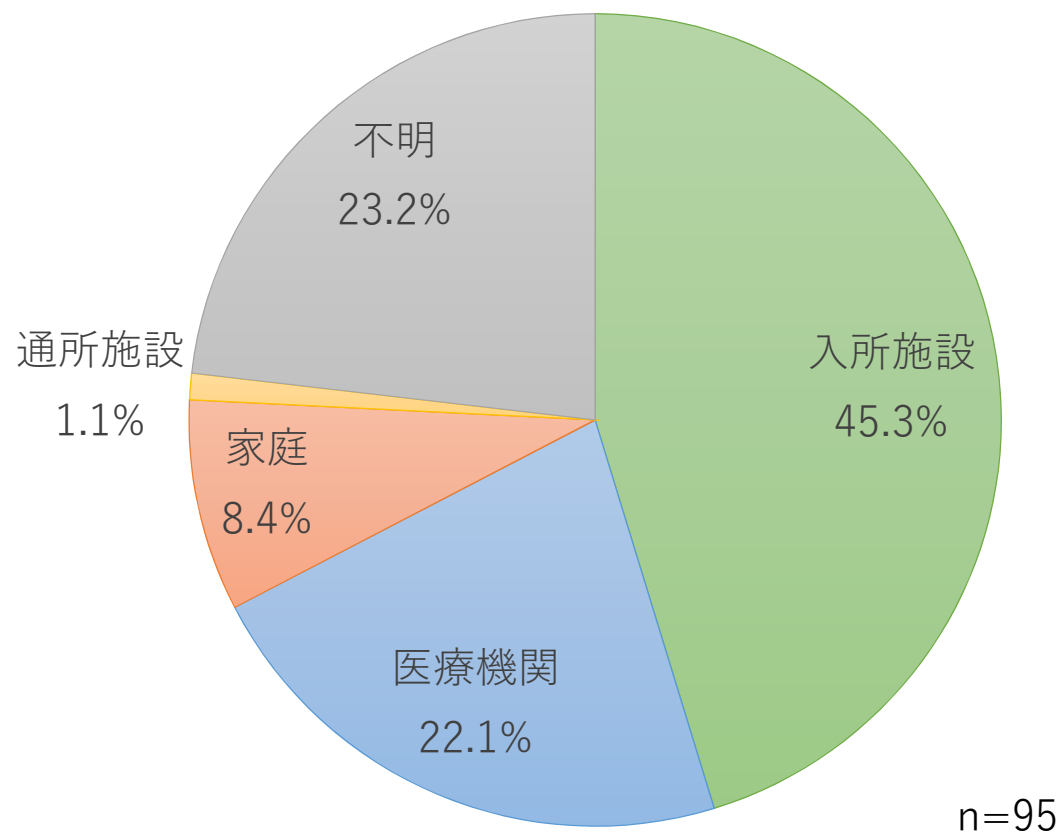
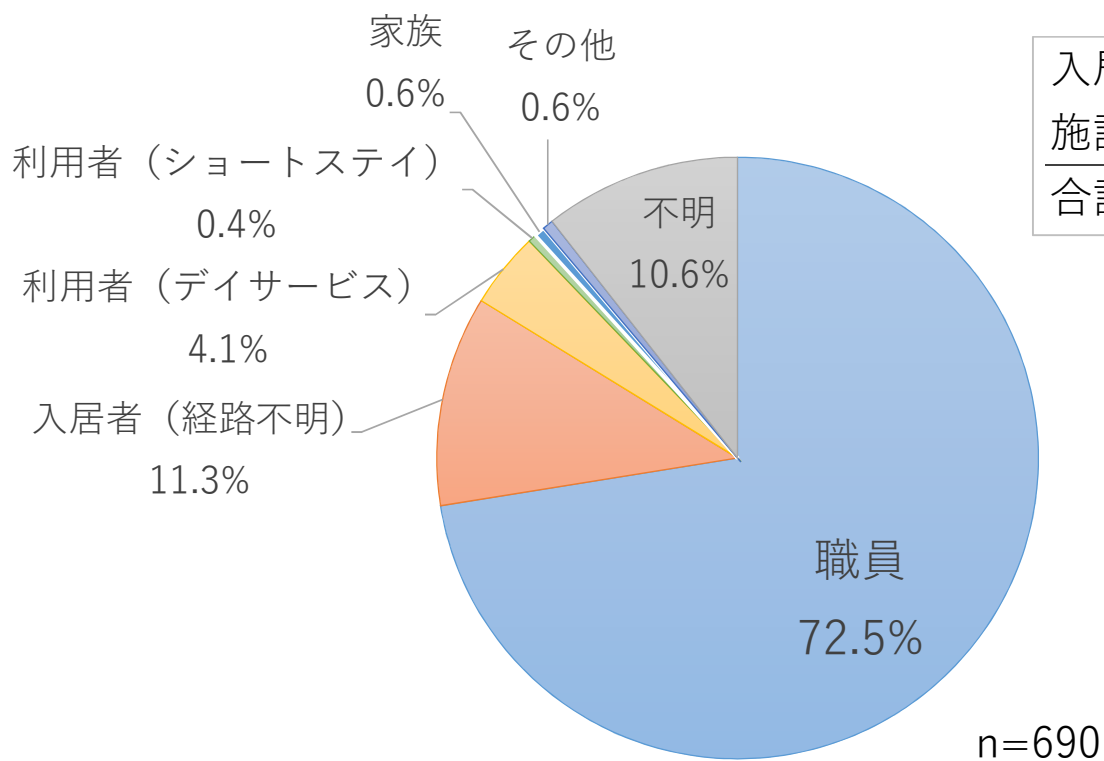


図9 社会福祉施設における初発例と感染者数（沖縄県）

施設支援班が介入した社会福祉施設数（2022年4月～6月）

施設内における初発例



最終的な感染者数

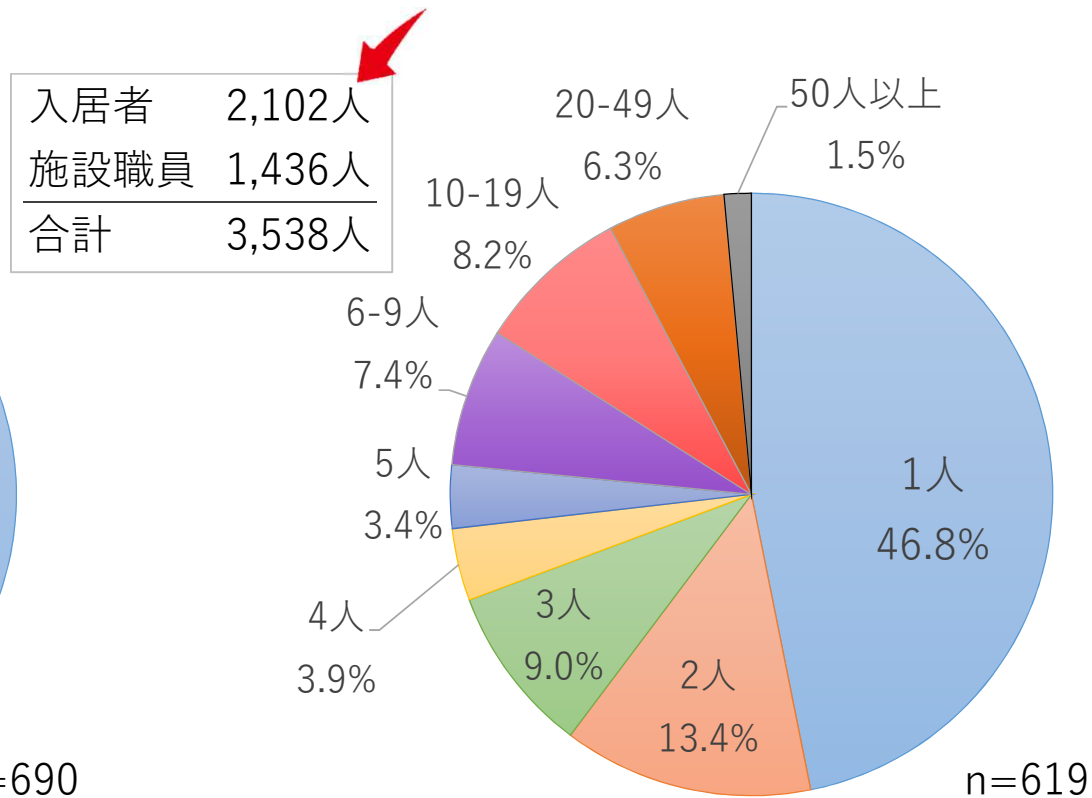


図10 今後1週間（7月11日-17日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（7月17日時点）		
	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0
沖縄本島	12,958	26,094	52,547	334	426	581
宮古圏域	560	1,128	2,271	11	15	22
八重山圏域	1,268	2,553	5,142	36	49	72
合計	14,786	29,775	59,960	381	491	674

図11 沖縄県における救急搬送件数の推移

